

「予防歯科」という概念

シュンデンタルクリニック

鎌田 俊

院長



【略歴】

平成16年、岩手医科大学を卒業。平成18年、同大学口腔顎顔面再建学講座入局。平成19年、同大学大学院に入学し、平成23年に卒業。道内外の歯科勤務を経て平成28年、シュンデンタルクリニック開院。日本歯科麻酔学会認定医。岩手医科大学非常勤講師。日本顕微鏡歯科学会、SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry) 所属。歯学博士。

「予防歯科」という言葉をご存知ですか？「歯医者に行って歯石を取って衛生士さんが歯ブラシ指導をする」アレです。皆さんも一度は受けたことがあると思います。では、なぜそのような概念が生まれたのでしょうか。

北欧にある国、スウェーデンは「予防歯科」先進国として知られ、世界で最も歯科疾患が少ない国と言われています。しかしスウェーデンではかつて、多くの人々が虫歯や歯周病で歯を失っていました。その状況を重く捉えたスウェーデン政府は1970年以降、国家プロジェクトとして「予防歯科」の重要性を訴えてきまし

た。スウェーデン政府は何をしたのでしょうか？まず虫歯や歯周病などの疾患発生率と①「歯科衛生士が行うプロフェッショナルクリーニング」②「自身が行う正しい歯磨き習慣」の関連性について大規模調査を実施しました。その結果、虫歯や歯周病の予防には①②の両方が重要であることがわかりました。このことから同政府は「歯が痛くなった」「被せ物が取れた」「歯が欠けた」から歯医者に行くのではなく、自分の歯を自分の歯のまま大切にする「予防歯科」を目的とする歯科医院受診を国民に義務化したのです。

健康に毎日の食事を美味しく味

わうためには、20本の歯が必要という調査があります。20本の歯を残せるかどうかで、将来自分がどのような食生活ができるか差が出てくると言え、このことからスウェーデンの取り組みの正当性がわかります。

「歯を失う」「老化現象」ではなく、「年をとっても歯は残せる」のです。ぜひかかりつけの歯科医院で、歯科衛生士によるプロフェッショナルクリーニングとご自身の歯磨きの弱点を教えてもらってください。日本国民の歯の健康が向上し、歯の健康寿命が人間の寿命を逆転することを切に願います。

シュンデンタルクリニック

函館市石川町461-38 ☎0138-47-3737
http://shundc.jp

■診療科目／歯科・歯科口腔外科・小児歯科・矯正歯科
■診療時間／9:00～18:00 ※水・土曜は14:00まで
■休日／日曜・祝日

